

令和6年度3学期始業式校長講話

皆さん、あけましておめでとうございます。雪の少ない年末年始でした。過ごしやすかったことと思います。

1年前に、能登半島地震がありました。これからする話は一度話したことがありますので、2, 3年生の中には覚えている人もいるかもしれません。去年の一月、学校が始まって間もない時です。私が階段を歩いていると、踊り場でばったり会った生徒が「あ、先生、地震大丈夫でしたか？」と声をかけてくれました。私はとても驚きました。先生から生徒に「地震があったけど大丈夫でしたか？」と声をかけることは良くありますが、生徒から、しかも授業もクラブも教えていない私に声をかけてくれるということは、普通はありません。ばったり会った私に声をかけてくれるとは、何て優しい生徒だろうと、印象に強く残りました。

今お話ししたのはほんの一つの例ですが、他にも色々な場面で皆さんの優しさや気遣いを感じます。私の親戚であちこちの高校の文化祭に行っている人が、「吉田の生徒は自分たちが楽しんでいるだけでなく、お客さんへのおもてなしの気持ちがあって良い。」と言っていました。また、同じような事が新聞の投書欄に書かれたこともあります。今年は雪が少ないので未だ出番がありませんが、大雪の時に学校周辺の雪かきをして感謝されたり、能登半島にボランティアに行った人たちもいます。本校は進学やクラブ活動で実績をあげていて、それははっきりと数字に表れていますが、数字では表せない「優しさや気遣い」もある学校だと思っています。自分たちが通う学校が素敵な学校だと嬉しいですよ？吉田は、優しい生徒の沢山いる、素敵な学校です。今年も是非その校風を大切にしたいと思っています。

これから実力テストや模試のある皆さんに気遣って、講話は短めに切り上げます。すべての皆さんにとって2025年が良い年になることを祈り、年頭の挨拶とします。